学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他，幅広い教養，高い倫理観を身につけ，患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い，最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に，学士(医学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し，かつ高度で総合的な能力を有する医療人・
医学者の育成を図ることにより，世界の医療，健康，福祉に貢献する」であり、下記
のとおり，カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目標	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心			C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
41129	医学入門	大学における講義の受講の大切さを学ぶ。	1	*									◎	○	◎	◎	○									
41183	早期医療体験	医療の基本としてのコミュニケーションの重要性を実技や患者さんのお話を通して認識すること。それを実践するために学生生活をどのように過ごすべきかを考えること。	1	*					◎				◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎		
INT1100A	大学・社会生活論	①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学習態度・学習技術・生活態度及び自己管理力を身につける。 ②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する。 ③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、大学6年間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようになる。	1	*					◎		◎			◎	◎	◎	◎					◎		◎		
	データサイエンス基礎	データサイエンスに関わる基本的知識やPC の活用に関わる基本的知識の理解。	1	*		◎						◎					○									
	TOEIC準備I, II	By the end of this course, students will have: (a) increased their vocabulary and understanding of phrases associated with the four parts of the listening section; (b) mastered basic listening strategies for these parts of the section; (c) had regular practice in listening for the gist and detail of English conversations and talks; (d) developed the ability to remember English conversations and talks; (e) developed their listening comprehension; and (f) practiced listening to numerous TOEIC-type questions.	1	*																			◎			
	TOEIC準備III、IV	Listening By the end of this course, students will be able to: (a) sometimes infer the central idea, purpose, and basic context of short spoken exchanges: (b) understand the central idea, purpose, and basic context of extended spoken texts; (c) understand details in short spoken exchanges when medium-level vocabulary is used; (d) understand details in extended spoken texts when the information is supported by repetition and when the information comes at the beginning or end of the spoken	1		*																		◎			
	EAP Ⅰ	Students who have completed the course can: (a) generate and expand ideas through clustering and outlining; (b) understand how stand-alone paragraphs are structured in English with a topic sentence, supporting sentences and a concluding sentence, and produce such paragraphs following this structure; (c) manage the process of writing a paragraph in English, with the ability to plan, draft and revise their work; and	1	*																			◎			
	EAP Ⅱ	Students who have completed the course can: (a) plan presentations by producing an outline of and response to source materials, considering aspects related to content, sources and language; (b) deliver presentations based on source materials, considering various aspects of delivery; (c) provide critical feedback on their peers' presentations, in terms of both content and delivery; and	1	*																			◎			
	EAP Ⅲ	Students who have completed the course successfully can: (a) write a summary that gives a clear picture of an original text using reporting verbs and phrases and in-text citations; (b) analyze the arguments provided in a text; (c) write a descriptive comparison of two sources; (d) state their understandings, reactions and opinions in English with confidence.	1		*																		◎			
	EAP Ⅳ	Students who have completed the course can: (a) write an essay which discusses different perspectives and problems on a given topic by drawing on sources; (b) find sources related to a given topic, and integrate the content into their own writing; (c) use English to express their opinions logically.	1		*																		◎			
	微分積分学IA・IB	1.いくつかの基本的な微分方程式を学ぶ. 2. 偏微分や全微分の概念を理解し，合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる. 3. 重積分および変数変換公式について理解し，基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになる. 但し，これらの目標を達成するにはある程度時間をかけて自習することが必要になる.	1	*													◎									
	線形代数学IA・IB	線型代数学の基本概念を理解すること 連立一次方程式が解けること 行列式の計算ができること 固有値固有ベクトルの計算ができること	1	*													◎									
	統計数学A・B	統計学の基礎知識の獲得	1		*							◎					◎									
	物理学IA・IB	力学をベクトルや微積分を使って理解し、使えるようになる事が目標です。そのためには、予習・復習が必要です。また、適宜、授業中に演習を行い、自分で問題を解く力を養います。 簡単な運動方程式が書ける、解ける	1	*													◎									
	物理学IIA・IIB	高等教育で必要な電磁気学に関連する物理学の基礎が理解でき、今後の専門科目の学習の礎となる。 電磁気学をベクトルや微積分を使って理解し、使えるようになる。	1		*												◎									
	化学IA・IB	1. 物質の性質を決める原子の電子配置，イオン化エネルギー，電気陰性度などの概念について理解する. 2. 原子同士が結びついて分子やイオンになる際の結合の仕組みを理解する. 3.　原子，分子やイオンが集合して物質を構成する際の分子間相互作用の成り立ちと物質の性質との関係を理解する.	1	*													◎									
	化学IIA・IIB	化学Iで学習した分子やイオンの構造に関する知識を基盤にして，物質の性質や反応について理解する. 1. 化学平衡について理解する. 2. 化学反応の速度論について理解する. 3. 酸・塩基反応について理解する.	1		*												◎									
	GS科目	KUGS(Kanazawa University "Global" Standards) 1. 自己の立ち位置を知る 2. 自己を知り、自己を鍛える 3. 考え・価値観を表現する 4. 世界とつながる	1	*	*				◎		◎					◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎		

学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他、幅広い教養、高い倫理観を身につけ、患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い、最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に、学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」であり、下記のとおり、カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために極く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習到達目標	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心			C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
INT1400A	地域概論	この授業科目を通じて次の学習成果を獲得する。 1. 医学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。 2. 自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。 3. 将来の働く姿を描きつつ、大学6年間の学修を主体的にデザインできるように	1	*											○			◎				○				
MEDB2106A	アカデミックスキル	・自ら課題を発見し、それを調べて、まとめることで、学習デザイン能力と論理的な思考力を向上させる ・ディスカッションやプレゼンテーションを経験することで、自己表現能力を向上させる ・他人とのディスカッション、レポートの作成等を通して、話す・聞く・書くなどの日本語能力を向上させる ・生命科学の基礎知識を習得する	1		*	◎			○	○	○	○										○				
MEDB2107A	プレゼン・ディベート論	幅広い教養と高い倫理観を身に着け、問題の発見とそれに対する解決方法を見いだせる能力を養う。個人の権利や尊厳を守り、コミュニケーション能力と協調性を養う。さらに、指導力の養成も目指す	1		*	○	○		◎		○	○				○	◎				◎	◎				
41214	プロフェッショナリズム	さまざまな医師のプロフェッショナリズムを知り、自らのキャリア形成の参考にする	2	*					○		○		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		
41215	社会科学・行動科学	・医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。 ・病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。 ・人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる ・経済的側面や制度的側面をふまえた上で、医療現場の実践を評価できる。 ・在宅療養と入院または施設入所との関係について総合的な考察ができる。 ・多職種の医療・保健・福祉専門職、患者・利用者、その家族、地域の人々など、様々な立場の人が違った視点から医療現場に関わっていることを理解する。 ・具体的な臨床事例に文化・社会的課題を見いだすことができる。	2		*	◎			◎		○		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○		
41158	学域GS言語科目Ⅰ(医学英語)	英語で教科書・論文を読み、理解できる。 患者等に英語で面接できる。 学会等において英語で発表討論できる。 医学に関する小論文を書くことができる。 医療および保健活動を行うにあたり、英語により意思疎通ができる。	2	*		○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎			
41159	学域GS言語科目Ⅱ(医学英語)	英語で教科書・論文を読み、理解できる。 患者等に英語で面接できる。 学会等において英語で発表討論できる。 医学に関する小論文を書くことができる。 医療および保健活動を行うにあたり、英語により意思疎通ができる。	2		*	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎			
11001	医薬保健学基礎	2年次以降に学ぶ基礎医学科目を理解するために必要な生命科学の基本的な知識を身につけている。さらに、自ら課題を発見して解決するという自己学習能力および論理的な思考を身につけている。	1	*		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41135	人体解剖学	1. 肉眼で観察し得るすべての人体の正常構造について学び、ヒトの生理的な営みや、疾病・傷害時の病態生理を、それに関わる人体の構造に基づいて説明することができる。 2. ヒトの正常構造を、それが作られる過程・しくみ（発生学）を踏まえたうえで、どうしてそのような構造をしているのか説明することができる。 3. ヒトの正常構造について、他の生物との違い（比較解剖学）、ヒトの進化の過程（系統発生学）を踏まえた上で、生物の一員としてのヒトの正常構造の特徴を説明することができる。 4. 解剖学実習に真剣に取り組むことで、講義や参考書で学んだ人体の正常構造に関する知識を自分の生きた知識として、しっかりと定着させ、実際の人体において、その正常構造について説明することができる。 5. 解剖学実習を通し篤志献体の精神を学び、医学教育が様々な方々に支えられていることを理解し、説明することができる。 6. 成績評価基準・人体の正常構造における専門的な知識を身につけている。それを実際の人体において説明することができる。篤志献体の精神や医学教育を支える様々な方々の気持ちを理解し、医師になることの社会的使命・責任を踏まえて解剖学の学習に取り組むことができる。人体の構造に係る課題を自ら発見し、自己学習によってそれを解決することができる。	2	*		◎	○	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○
41136	組織学	光学顕微鏡および電子顕微鏡レベルの細胞・組織の構造について、講義および教科書により理解するほか、自分の目で観察することが重要である。成績評価において、講義部分（記述試験で評価）については自分で考える力や、知識を文章で表す力を重視する。実習部分（実習試験で評価）については構造を形態的に把握する力や、構造名を正確に記載する力を重視する。この科目に合格することにより、すべての医学分野の学習に必要な基礎知識が得られるのみならず、要点の暗記ではなくまとまった記述をしっかりと読み書きして理解する能力が得られるだろう。	2	*		◎	○		◎		◎	○														
41137	神経解剖学	脳及び脊髄の基本的な構造及び機能を概説できるようにする。また、各神経路の起点および終点を述べ、さらにその異常についての説明ができるようにする。	2		*	◎	○	○	◎		◎	○										○				
41138	発生学	人体を構成する主要臓器において、その起源・発生の過程・および主な先天性疾患を述べることができるようになること。	2	*		◎	○		○		○															
41139	器官生理学	生体機能の基本（各器官の機能、器官機能の調節機構、器官の相互作用）を、各器官とそれを構成する細胞、分子のレベルに立脚して説明できる。疾病の病態生理を理解・追求しうる知の基礎力を身につける。各系の有機的な連携について考察できる。さらに、自ら課題を発見し、自己学習によってそれを解決できる。また、科学的研究の最新情報を収集し、その内容を理解できる。実習では、講義で学習した生体の各機能を理解し、説明できる。	2 3	* *	*	◎	○		○	◎	◎															
41140	神経生理学	神経細胞の生理学的性質、神経系の正常機能について、その仕組みを理解し説明することができる。	2 3	* *	*	◎	○		◎	○	◎	◎														
41150	生化学Ⅰ	・講義で紹介した医学に関わる基本的な原理や概念、方法論を理解する。 ・医学を理解する上で必要な基礎用語を使いこなせること。 ・細胞の基本的な要素や代謝が破綻するとどのような疾患が生じるかを学ぶ。 ・実習では分子生物学実験の基本的な技能を学ぶ。	1 2	*	* *	◎	○		○	○	◎	◎														

学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他，幅広い教養，高い倫理観を身につけ，患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い，最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に，学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し，かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより，世界の医療，健康，福祉に貢献する」であり，下記のとおり，カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに，早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心			C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
41151	生化学Ⅱ	細胞や生体内の各種の分子の構造と機能及びそれらが織りなす生化学反応を学び，細胞から個体レベルにわたる各種の生命現象（健康と病的な状態）を理解・考察する基礎を身につける。分子生物学や生化学における基礎知識、及び基本的実験技能を身につける。更に、自ら必要な課題を発見し自己学習によってそれを解決する能力を養う。科学的思考に基づく論理展開ができるようになり、探究心・研究心をもって生涯に渡る継続的学習を行うことができる。科学的研究の最新情報を収集・分析し、自己の情報とすることができる。	1 2	*	* *	◎	○		◎	○	◎	◎										◎				
41141	薬理学	次項の学習成果を達成し，診療に必要な薬物治療の基本を身につける。 学習成果1　薬物の総合的理解 歴史的な薬物研究の進展や薬理学の概念について理解することができる。 学習成果2　基本的な知識 薬物の生体への作用や薬物動態について，細胞・分子レベルにおける機序を理解するとともに、探求心をもって継続的に学習することができる。 学習成果3　臨床応用 臨床適応のための最新の研究情報を収集・解析する能力を備える。	2 3	*	*	◎	○	◎	◎	◎	○	○														
41152	動物実験と再生医学	医学研究、再生医学研究に必須な動物実験や幹細胞研究の基盤となる基礎的知識の習得に努める。特に将来，医学研究に携わる際に、対処療法にとどまらない根本的治療の開発に貢献できるよう、その礎となる遺伝子改変動物学や再生分子医学の基礎を、本講義を通して確実に習得する。また、最先端の基礎医学研究に触れることで、医学研究における探究心の向上を目指す。 成績評価基準は，上記の目標を達成できたかを授業の出欠と試験で総合的に判断する。当該講義を履修することで、英語による学術論文が読めるようになり、内容を伝えられるような基盤的知識が獲得できる。また、研究倫理や 研究活動の基本的姿勢を獲得できる。	2		*	◎	○		◎	○	◎	◎			○												
41126	遺伝学	ヒトゲノム情報の蓄積、多様性など、人類遺伝学の理解に必要とされる基礎知識を体系的に習得し、ヒト疾病や形質の要因について、人類遺伝学やゲノム医科学の観点から理解する能力を身につける。	2		*	◎	○		◎		◎	◎				◎	○					○				
41142	病理学Ⅰ	病理学的専門用語を正確に理解する。代表的な疾患の病因，病理形態を説明できかつ、肉眼形態および組織像から病理診断ができる。	2 3	*	* *	◎	○														○	○				
41143	病理学Ⅱ	シラバスに記載された講義のタイトルを基に、教科書により調べ、予習とする。 講義中はプリントの項目毎に学習することを目標とする。 講義で理解出来なかったことをテキスト・参考書により調べ復習とする。	2 3	*	* *	◎	○																			
41144	ウイルス感染学	ウイルスの基本的性状，病原性とそれによって生じる病態および，主なウイルス感染症の診断・治療・予防法を理解する。個別の目標は以下のようである。 1) ウイルス粒子の構造を図示し、各部の機能を説明できる。 2) 構造と性状によりウイルスを分類できる。 3) DNA ゲノムとRNA ゲノムの複製・転写を一般化し、説明できる。 4) ウイルスの吸着、侵入、複製、成熟と放出の各過程を説明できる。 5) ウイルス感染細胞に起こる変化を説明できる。 6) ウイルス感染の種特異性、組織特異性と病原性を説明できる。 7) 主な感染様式の具体例を説明できる。 8) インターフェロンの誘導と作用について説明できる。 9) ウイルスに対する中和反応と細胞性免疫を説明できる。 10) ワクチンによるウイルス感染症予防の原理を説明できる。 11) ワクチンの種類と問題点を説明できる。 12) 主なDNA ウイルスとRNA ウイルスが引き起こす疾患名を列挙できる。 13) ヘルペスウイルス科の特徴と潜伏感染について説明できる 14) 肝炎ウイルスとウイルス性肝炎について説明できる。 15) パポーバウイルス科の特徴と腫瘍ウイルスの概念について説明出来る。 16) アデノウイルス科、パポーバウイルス科、パラミキソウイルス科、エンテロウイルス、ロタウイルスの特徴とそれらが引き起こす疾患について説明できる。 17) インフルエンザウイルスの特徴とインフルエンザの流行、予防、治療について説明できる。 18) レトロウイルス科の特徴とAIDSについて説明出来る。 19) ウイルスの危険度分類を説明することができ、ウイルスの基本的な不活化の方法を実施できる 20) 主要なウイルス学的検査法の原理とその意義を説明できる。	2 3	*	*	◎	○	○																		
41145	細菌感染学	個々の感染症の病原体は何であり、どのようにしてその病態が生じているかを分子生物学的に理解することが目標であり、かつ成績の基準である。それぞれの病原性細菌・真菌の生物学的特性、及びそれらによる疾病の基本的病態に関する正確な知識を身につける。	2 3	*	*	◎	○	○	◎		◎										○					
41146	寄生虫学	1)寄生虫・衛生動物を対象とした予防医学的対応、診断、治療を、担当する医療圏において自ら実施できる医師の養成を目標とする。 2)寄生虫・衛生動物の基本的なライフサイクルとそのもたらす病態、さらに診断・治療・予防法について、正確な知識を身につける。 3)世界および日本における寄生虫症流行の実態を把握し、寄生虫・衛生動物の生物学的特性に応じて実施される多様な公衆衛生学的感染症対策の方法論を理解する。 4)寄生虫・衛生動物の分類を理解し、臨床検査・同定の方法を体験し理解する。	2 3	*	*	◎	○	○		○				○		○	○				○					
41147	免疫学	1)免疫システムの基本的構成と特性を理解する。 2)抗体の構造と機能、さらに多様性生成のメカニズムを理解する。 3)主要組織適合性抗原の構造と抗原提示における役割を理解する。 4)T細胞の活性化と機能を理解する。 5)サイトカインの分類と役割を理解する。 6)補体系・接着分子・ケモカインの機能を理解する。 7)感染免疫・自然免疫機構を理解する。 8)アレルギー・自己免疫疾患・移植免疫・腫瘍免疫の基礎的概念を理解する。	2 3	*	*	◎	○																			
41160	衛生学	基礎医学全般のしっかりした理解が必要であり，その上に衛生学は応用科学として存在していることが前提であることを再確認する必要がある。このことを理解した上で，健康の保持・増進に関わる事象をグローバルに把握する。理解度の評価に筆記試験を利用する。	3	*		◎	○		◎	○	◎	○	○		○	○	○	◎	○	○	○	◎		○		

学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他、幅広い教養、高い倫理観を身につけ、患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い、最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に、学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」であり、下記のとおり、カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目標	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心			C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
41184	公衆衛生学Ⅰ	社会制度としての側面を持つ医学・医療を身に付けるには、広く医療制度や社会情勢に目を向けることが重要である。また、EBMの重要性が広く認識され、臨床研究や疫学調査データを正しく理解することが求められている。これらの要求に対応する基礎を身に付け、社会保障制度の変遷、医療行政における疫学の重要性を理解することを目標とする。	3	*	*	◎			◎	◎								◎			◎					
41185	公衆衛生学Ⅱ	社会制度としての側面を持つ医学・医療を身に付けるには、広く医療制度や社会情勢に目を向けることが重要である。また、EBMの重要性が広く認識され、臨床研究や疫学調査データを正しく理解することが求められている。これらの要求に対応する基礎を身に付け、社会保障制度の変遷、医療行政における疫学の重要性を理解することを目標とする。 本目標の達成により、医療制度全般に関する理解と共に、EBMに基づく医学・医療の評価と検証を行うための基本的かつ重要な知識および方法を身に付けることができる。	6	*		◎				○				○			◎							○		
41216	法医学Ⅰ	法医学における専門的知識、並びに、検死や死亡診断書または死体検案書作成の基本的技能を身につけている。また、社会における法医学の果たす役割について理解している。 1. 人の生と死、特に死体現象、異状死体、並びに代表的な内因死・外因死について説明できる。 2. 検死・検案に関する基本的知識を有し、基本的な態度及び技能を習得している。 3. 死亡診断書と死体検案書の違いを説明でき、適切な文書を作成する基礎を身につけている。 4. 個人識別に関する基本事項や応用例を知っていて、特に、広義血液型(DNA多型を含む)について説明できる。 5. 医療事故や医事紛争についてその現状を知っていて、その予防策や解決法について説明できる。	2 3	*	* *	◎			◎		◎				◎											◎	◎
41148	国際保健学	-Understand key global health topics today. -Understand Japanese health policies to achieve health-related SDGs in Japan	2	*		○			◎	○					○			○	○			○	○			
41156	基礎研究室配属	基本的な実験手技、研究知識、態度を習得するとともに、実験結果を解釈できる能力を身に付け実践できる。セミナーや抄読会などに参加し、討論、発表、英語論文を講読する能力を身に付ける。また、医学研究者として必要となる論理的思考を身につけ実践できる。	3	*		◎			◎	◎	◎	◎										○	○			
41161	診断学実習	1. 医療面接 (ア) 適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀を実践できる。 (イ) 医療面接の目的・意義を説明できる。 (ウ) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる。 (エ) 病歴情報の種類とそれを聴取する際の手順を説明できる。 2. 身体診察 (ア) 頭頸部 ① 頭部の診察ができる。 ② 耳（外耳道、鼓膜、聴力）の診察ができる。 ③ 口腔、鼻腔の診察ができる。 ④ 頭頸部リンパ節・唾液腺の診察ができる。 ⑤ 甲状腺を含めた頸部の診察ができる。 (イ) 胸部 ① 胸部診察で確認すべき項目を列挙し、視診、打診、触診と聴診ができる。 ② 乳房の診察の要点と診察の手順を説明できる。 (ウ) 腹部 ① 腹部の区分を説明できる。 ② 腹部診察で確認すべき項目を列挙し、視診、打診、触診と聴診ができる。 ③ 肛門・直腸診の要点と手順を説明でき、模型で行える。 (エ) 神経 ① 意識状態が判定できる。 ② 脳神経の診察ができる。 ③ 眼（視野、瞳孔、眼球運動、結膜、眼底）の診察ができる。 ④ 深部腱反射の診察ができる。 ⑤ 小脳・運動機能の診察ができる。 ⑥ 感覚系の診察ができる。 ⑦ 髄膜刺激所見のとりかたを説明できる。 (オ) バイタルサイン ① バイタルサインを説明できる。 ② 血圧測定の原理を説明し、正しく上肢・下肢の血圧を測定できる。 ③ 脈拍のチェックポイントを説明し、正しく脈拍をとれる。 ④ 下肢の浮腫を観察できる。 3. 外科系基本的臨床手技 (ア) 静脈採血の手順、部位と合併症を列挙し、正しく採血できる。 (イ) 清潔と不潔の区別を説明できる。 (ウ) 簡単な皮膚縫合の要点と手順を説明でき、模型で行える。 (エ) 術前の手洗い・術衣を着ることができ、手袋を装着できる。 4. 救命処置 (ア) 一次救命処置（BLS）を行うことができる。 (イ) 二次救命処置（ACLS）を説明できる。 (ウ) AEDを使用できる。 5.精神科的面接の基本と方法をみにつける。 6.CT/MRIの画像診断 7. 症候から診断に至る臨床推論が行える。	4	*	*		○	◎	○	○										◎			○				
41028	医の倫理と医療法規	医療倫理に関する歴史の概要を理解する。 医療に関する法制度の概要を理解する。 臨床倫理の概念を理解する。 臨床倫理の実践に必要な知識、方法、体制を理解する。 医療に関する紛争の概要を理解する。	4	*									◎	◎	◎	◎	◎									◎

学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他、幅広い教養、高い倫理観を身につけ、患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い、最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に、学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」であり、下記のとおり、カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目標	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心			C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
41162	臨床検査医学	一般目標 医療面接や現症などから得られた医療情報をもとに作業仮説をたて、臨床検査項目を適切に行い、その結果を解釈できることとする。 到達目標 1. 日常初期診療における基本的検査を列記でき、臨床検査値に与える因子、異常所見を指摘できる。 2. 検尿異常（血尿、蛋白尿、沈渣）の臨床的意義を説明できる。 3. 肝機能検査と肝疾患の病態分類を説明できる。 4. LDH, ALP, CK, アミラーゼなどのアイソザイム分画が必要な病態を説明できる。 5. 検体のグラム染色から得られる情報を正しく理解できる。 6. 院内感染の感染経路と防止策を説明できる。 7. 血液学的検査の異常とその病態を説明できる。 8. 免疫学的検査が理解でき、結果を解釈できる。 9. 採血時の抗凝固剤の種類を列記でき、検査項目との関係を列記できる。	3 4	*	* *		◎	○																			
41163	画像診断学	・放射線の生体影響、放射線被ばくおよび放射線防護について理解する。 ・エックス線撮影、コンピュータ断層撮影；CT、核医学検査、血管造影検査、超音波検査、磁気共鳴画像法；MRIの原理を理解し、これらによる診断の基本を習得する。 ・放射線治療の原理を理解し、主な治療法を列挙できる。 ・インターベンショナルラジオロジー（画像誘導下治療）の基本を習得する。	3 4	*	* *		◎	◎																			
41164	小児科学	小児の身体的、運動知能的発育・成長の正常範囲を理解し、説明できる。小児期の基本的な疾患を理解し、説明できる。	3 4	*	* *	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
41025	臨床遺伝学	1. 将来医師となり遺伝性疾患の症例を受け持つことになった際、家系図の作成、診断やフォローアップのための正しい遺伝を思い描くことが出来る。 2. また、患者及び家族の意思を尊重し、臨床医としても必要な遺伝カウンセリング・マインド（積極的傾聴と共感的理解）を身につける、必要に応じ適切な遺伝カウンセリングに紹介出来る。	3		*	○	◎	○					◎		○	○	○			○							
41165	感染症学	感染症疾患の診断及び治療に必要な微生物学および分子生物学的知識を取得する。感染症の疫学的動向を理解する。抗菌療法の基本および副作用を理解する。宿主の状態、感染経路などによる感染症の識別診断を理解する。	3		*	○	◎	○																○		
41166	理痛学	ヒトの各臓器に発生する腫瘍の病態、診断および治療について、広く総合的に理解を深める。このことにより、腫瘍学の基本的知識を身に付け、多種多様な腫瘍に対して適切な対応をとることが出来るようになる。	3		*		◎	○																		
41167	免疫・アレルギー学	臨床免疫学を理解し、アナフィラキシー、リウマチ、膠原病、アレルギー疾患の病態と発症のメカニズムを説明できる。診断基準に基づいて全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、皮膚筋炎・多発筋炎、血管炎症候群、シェーグレン症候群が正しく診断できる。ステロイドホルモンや免疫抑制剤、生物学的製剤による治療法を習得する。治療中に発症しうる感染症をはじめとした合併症に対する適切な評価と対応法を習得する。	3		*	○	◎	○			○																
41168	血液学	造血や凝固・線溶のしくみを理解する。末梢血液・骨髄細胞の識別ができるようになる。各疾患における症状、検査成績、診断方法および治療法を理解する。造血幹細胞移植の原理や合併症、移植片対腫瘍細胞効果について理解できるようになる。 また、代表的な血液疾患の症状、検査成績、診断方法および治療法が理解できる。予後因子の有無により治療法が選択できる。代表的な疾患の血液・骨髄像が分かる。代表的な疾患の分子生物学的病因論を理解する。分子標的療法、分化誘導療法などの最新の治療法を知る。	3 4	*	*	○	◎	○																			
41169	神経精神科学	代表的な精神疾患についてその特徴を述べることが出来る。	3		*	○	◎	○																		
41170	脳神経・感覚器学	（脳神経外科学） 脳・脊髄の器質的疾患の病態を具体的に説明できる。これらの外科的治療の適応と限界を説明できる。	3 4	*	*	○	◎	○																		
		（眼科学） 講義では、先ず何よりも眼科学の面白さを楽しく学習する。臨床実習の目標は単なる眼科の知識の習得のみならず、いかなる分野においても必要な自己解決能力の涵養である。すなわち、講義で知識を習得し、臨床実習において実際の患者を診ることで知識を深め、さらに疑問点を発見し解決するというすべての臨床医、基礎医学者に必要な能力を身につけることである。				○	◎	○																		
		（耳鼻咽喉科学） CBT, OSCEで要求される知識、技能を習得する。 臨床実習で実際の症例を眼前にした際に、病歴、病態から診断法、治療法が想起できるようにする。				○	◎	○																		
41219	脳神経内科学	神経系の疾患についての基本的知識（病態・診断・治療等）や神経診察の技能を身につけている。 系統講義 ・神経系の病態についての基本的知識を修得する。 ・神経系を侵す疾患についてのアウトラインを理解し、代表的神経疾患についての概略を習得する。 診断学実習 ・神経学的診察法を習得し、神経学的診断のプロセスを理解する。 臨床講義 ・症例の現病歴から病気のカテゴリー診断を行う。 ・神経学的診察から神経学的局在診断を行う。 ・カテゴリー診断と神経学的局在診断から、症例の病態、診断を考察する。 ・症例の病態、診断を裏付けるための検査について理解し、解釈する。 ・鑑別診断を挙げ、鑑別方法について考察する。 ・治療法について理解し、考察する。	3 4	*	*	○	◎	◎	○	○	○	○															

学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他、幅広い教養、高い倫理観を身につけ、患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い、最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に、学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」であり、下記のとおり、カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習・教育目標	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心			C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
41172	循環器学	1.循環器疾患を理解するために必要な全身臓器の構造と機能を説明できる。 2.循環器疾患の鑑別に必要な臨床検査（各種血液検査・生理学的検査・画像検査等）の意義ならびに理論を把握し、正常および異常所見を説明できる。 3.循環器疾患の症候を理解し、鑑別診断を列挙し、確定診断のために行うべき検査を計画し、診断の病因、病態生理、合併症、適切な治療法ならびに予後につき、文献読解等を通して科学的根拠に基づき論理的に考察できる。また、必要に応じて各専門医との連係を図る重要性を理解する。 4.患者の病状について的確なプレゼンテーションを行う技能を身につける。	3		*	○	◎	○	○	○	○															
41173	呼吸器学	呼吸器疾患患者の診療の土台となる基本的知識を身につける。 主として正常の所見を学び、正常と異常の区別が可能になること。 異常(プロブレム)を整理し、適切な方針を立てること。	3 4	*	*	○	◎	○	○			○	○	○	○	○	○		○							
41174	栄養・消化器学	栄養・消化器臨床講義を効果的に受講し、かつ将来の臨床実習を円滑にかつ効果的に行うための基礎的知識を獲得し、さらに最新のトピックスは何かを自らも探索する。 成績が「合」となることによって、栄養・消化器領域における基礎的な知識を身につけている。更に、科学的研究の最新情報を収集・実践できる。	3 4	*	*	○	◎	○		○		○														
41047	生殖・胎生・周産期	生殖生理・病態について学び、妊娠、分娩、産褥ならびに周産期における代表的疾患の原因、診断、治療及び婦人科学における代表的疾患について、その病因・病理・診断法・治療法を理解する。	3 4	*	*	○	◎	○																		
41175	腎臓学	腎・高血圧・水電解質・酸塩基平衡異常の病因ならびに病態を把握し、診断・治療の考え方を身につけることができる。さらに、異常を病態に関して、自ら必要な課題を発見し、それに対して自己学習によって検索・検討・解決する事ができる.	3 4	*	*	○	◎	○	○																	
41176	泌尿器学	腎・泌尿器・男性生殖器学領域における専門的な知識及び診断及び治療の基本的技能を身につけている。 泌尿生殖器臓器の解剖、生理的機能をまず理解する。次に、泌尿生殖器臓器から発生する疾患に関する症状から考えられる疾患を鑑別する能力を身につける。 確定診断を行うための検査方法を理解する。またその検査によって得られる知見を理解する。泌尿生殖器疾患を治療するための治療法を理解する。	3 4	*	*	○	◎	○																		
41049	皮膚・結合織・膠原病	主な皮膚疾患について理解する。 臨床医学領域について専門的な知識及び診断、治療の基本的技能を身につけることができる。	3 4	*	*	○	◎	○																		
41050	運動器	四肢・脊椎における筋骨格系の構造、骨・関節や脊髄・末梢神経の機能を理解する。整形外科疾患の病態や特徴、手術的治療だけでなく保存的治療についても十分理解し、実際の診療に役立つ実践的知識を取得することを目標とする。	3 4	*	*	○	◎	○										○	○					○	○	○
41177	内分泌・代謝学	1) 各内分泌代謝疾患の病態生理、診断、治療を「系統講義」を通じて理解し、プラカンによる「臨床講義」おいて個々の内分泌代謝疾患を有する患者を診療できる。 a) 副腎疾患 副腎不全 副腎皮質ホルモン過剰症(原発性アルドステロン症、クッシング症候群) 副腎髄質疾患（褐色細胞腫)、多発性内分泌腫瘍 副腎癌、偶発腫瘍 b) 骨、カルシウム代謝疾患 副甲状腺機能亢進症、低下症、骨粗しょう症 c) 糖尿病、メタボリックシンドローム d) 肥満、高血圧、脂質代謝異常 e) 甲状腺疾患 甲状腺機能亢進症、低下症 甲状腺がん f) 間脳、下垂体疾患 下垂体機能低下症 先端巨大症 プロラクチノーマ 下垂体後葉関連疾患(尿崩症、SIADH) 2) 内分泌代謝疾患を診療できる能力を身につける(診察、(負荷)検査、画像診断、治療薬)	3 4	*	*	○	◎	○	○	○	○															
41186	麻酔・集中治療医学	全身麻酔、局所麻酔の実際を学ぶ、循環および呼吸生理学、代謝・体液生理学を学ぶ。 集中治療医学を学ぶ、 ペインクリニックや緩和医療を学ぶ.	3 4	*	*		◎	○		○																
41085	臨床薬理学	臨床薬理学領域における以下の知識を身につけている。さらに、自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決することができる。 ・代表的な薬物の吸収、分布、代謝と排泄 ・薬物の生体膜透過に影響する因子 ・薬物の様々な投与方法および投与後の薬物動態 ・年齢（小児、高齢者等）による薬剤投与の注意点 ・薬物相互作用例 ・処方せんの書き方、服薬の基本、コンプライアンスの重要性 ・主な薬物の副作用 ・和漢薬（漢方薬）の特徴や使用の状況 ・薬物の評価におけるプラセボの意義 ・副作用報告と有害事象報告の意義 ・臨床研究、臨床試験、治験と市販後臨床試験の違い ・研究目的での診療行為に要求される倫理性 ・研究デザイン（二重盲検法、ランダム化比較試験、非ランダム化比較試験、観察研究、症例対照研究、コホート研究、メタ解析） ・薬物に関する法令と医薬品の適正使用に関する事項 ・医師の法的義務	4	*		○	◎	○	○	○			○		○							○			◎	◎
41178	歯科口腔外科学	将来、医師になった時に口腔疾患に対する必要最小限の診断能力を身に付けておく。	4	*		○	◎	○																		
41179	救急・災害医学	医師として救急災害医療を実践できるようになるため、救急災害医学・医療に関する基本的態度・知識・技術を身につける。 代表的症例呈示に対し、救急医学の視点から問題点を抽出し、それらを統合して診断と治療の組み立てができる。	4	*		○	◎	○							○			○			○					

学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他、幅広い教養、高い倫理観を身につけ、患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い、最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に、学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」であり、下記のとおり、カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心		C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
41180	総合診療学・地域医療学	1）地域特性や健康上の課題を把握する地域アセスメントの意義と必要性を説明できる。 2）既存データの収集方法やデータの持つ背景を理解できる。 3）経年的推移・他地域（県外も含む）との比較検討から変化や違いの要因を検討できる。 4）複数のデータを統合し、科学的根拠に基づいたアセスメントができる 5）アセスメント内容を示すための適切な図表を作成できる 6）担当自治体の地域特性、健康課題の概観を理解できる 7）アセスメントの明確化や深化に必要な量的・質的データは何かを探索的に考えることができる。 8）グループの一員として課題解決のために必要な、協調性やリーダーシップの重要性を理解し、自己の役割を遂行できる。	3		*	◎			◎		◎	◎			○	○		◎	◎	◎	◎				
41218	臨床医学の共通基盤	科学的思考の知識と技能、倫理的法的思考の知識と技能、安全工学の医学における応用の知識と技能を有することが学修目標である。 EBM領域：① 臨床的疑問の定式化、② 文献の検索と取捨選択、③ 論文の批判的吟味、④ 科学的根拠の個別の患者への適用を行うことができる。 医療安全領域：①患者安全の基本的考え方、②インシデントレポート、③説明と同意、④多職種連携などを中心に、「患者を守り、医療者を支える」仕組みについて理解する。 医用工学領域：医療機器や医療材料および病院施設に関する工学的事項の初歩を理解する。診療記録に関する法制度と実務の概要を理解する。	4	*	*	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				○	○	○		◎	◎	◎
41187	循環器内科学臨床実習	1. 医師を志すものとしての責任を自覚し人間性の向上に努める。 2. 臨床医ならびに研究者として必要な探究能力の基礎を修得する。 3. 患者に接する基本的態度を身につけ，適切なコミュニケーションをとりつつ，診断情報の収集を目的とした病歴の聴取が施行できる。 4. 循環器内科疾患を理解するために必要な全身臓器の構造と機能を説明できる。 5. 循環器内科診断学の基礎的知識を背景に全身の観察，頭頸部，胸部，腹部，神経系ならびに骨・関節・筋肉系の基本的診察法が実施できる。 6. 循環器内科全般に及ぶ臨床検査（各種血液検査・生理学的検査・画像検査等）の 意義ならびに理論を把握し，所見を説明できる。また，基本的な検査については自らそれを行うことができる。 7. 循環器内科疾患の症候を理解し，鑑別診断を列挙し，確定診断のために行うべき検査を計画し，診断の病因，病態生理，合併症，適切な治療法ならびに予後につき，文献読解等を通して科学的根拠に基づき論理的に考察できる。また，必要に応じて各他分野専門医との連係を図る重要性を理解する。 8. 患者の病状について的確なプレゼンテーションを行う技能を身につける。	4 5	*	* *	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎		○	○	○
41188	内分泌・代謝内科学臨床実習	1）各内分泌代謝疾患の病態生理、診断、治療を「系統講義」を通じて理解し、ブラカンによる「臨床講義」おいて個々の内分泌代謝疾患を有する患者を診療できる。 a）副腎疾患 副腎不全 副腎皮質ホルモン過剰症(原発性アルドステロン症、クッシング症候群) 副腎髄質疾患（褐色細胞腫）、多発性内分泌腫瘍 副腎癌、偶発腫瘍 b）骨、カルシウム代謝疾患 副甲状腺機能亢進症、低下症、骨粗しょう症 c）糖尿病、メタボリックシンドローム d）肥満、高血圧、脂質代謝異常 e）甲状腺疾患 甲状腺機能亢進症、低下症 甲状腺がん f）間脳、下垂体疾患 下垂体機能低下症 先端巨大症 プロラクチノーマ 下垂体後葉関連疾患(尿崩症、SIADH) 2）内分泌代謝疾患を診療できる能力を身につける(診察、(負荷)検査、画像診断、治療薬)	4 5	*	* *	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎		○	○	○
41189	消化器内科学臨床実習	1. 医師を志すものとしての責任を自覚し人間性の向上に努める。 2. 臨床医ならびに研究者として必要な探究能力の基礎を修得する。 3. 患者に接する基本的態度を身につけ，適切なコミュニケーションを とりつつ，診断情報の収集を目的とした病歴の聴取が施行できる。 4. 内科疾患を理解するために必要な全身臓器の構造と機能を説明できる。 5. 内科診断学の基礎的知識を背景に全身の観察，腹部の基本的診察法が実施できる。 6. 内科全般に及ぶ臨床検査（各種血液検査・生理学的検査・画像検査等）の 意義ならびに理論を把握し，所見を説明できる。また，基本的な検査に ついては自らそれを行うことができる。 7. 内科疾患の症候を理解し，鑑別診断を列挙し，確定診断のために行うべき検査を計画し，診断の病因，病態生理，合併症，適切な治療法ならびに 予後につき，文献読解等を通して科学的根拠に基づき論理的に考察できる。また，必要に応じて各専門医との連係を図る重要性を理解する。 8. 患者の病状について的確なプレゼンテーションを行う技能を身につける。	4 5	*	* *	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
41190	腎臓内科学臨床実習	腎・高血圧・水電解質・酸塩基平衡異常の病因ならびに病態を把握し、診断・治療の考え方を身につけることができる。さらに、受け持ち患者の異常な病態に関して、自ら必要な課題を発見し、それに対して自己学習によって検索・検討・解決する事ができる.	4 5	*	* *	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	△	◎	○	○		○	○	○
41191	リウマチ膠原病内科学臨床実習	毎日のリウマチ膠原病患者の診察を通して、必要な医療面接・身体診察・検査の選択と解釈、治療選択といった臨床推論のスキルを得ること。代表的なリウマチ膠原病疾患についてのみならず、同一患者に隣伴しうる感染症や薬剤の副作用への対応、膠原病のmimickerについてアセスメントし対応できることを目標とする。	4 5	*	* *	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎		○	○	○

学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他、幅広い教養、高い倫理観を身につけ、患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い、最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に、学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」であり、下記のとおり、カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに、早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目的	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心			C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
41192	血液内科学臨床実習	1. 医師を志すものとしての責任を自覚し人間性の向上に努める。 2. 臨床医ならびに研究者として必要な探究能力の基礎を修得する。 3. 患者に接する基本的態度を身につけ、適切なコミュニケーションをとりつつ、診断情報の収集を目的とした病歴を聴取できる。 4. 血液内科疾患を理解するために必要な臓器の構造と機能を説明できる。 5. 内科診断学の基礎的知識を背景に全身の観察、頭頸部、胸部、腹部、神経系ならびに骨・関節・筋肉系の基本的診察が実施できる。 6. 血液疾患に関係の深い臨床検査（各種血液検査・骨髄検査・画像検査等）の意義ならびに理論を把握し、所見を説明できる。また、基本的な検査については自らそれを行うことができる。 7. 血液疾患の症候を理解し、鑑別診断を列挙し、確定診断のために行うべき検査を計画し、診断の病因、病態生理、合併症、適切な治療法ならびに予後につき、文献読解等を通して科学的根拠に基づき論理的に考察できる。また、必要に応じて各専門医との連係を図ることの重要性を理解する。 8. 患者の病状について的確なプレゼンテーションを行う技能を身につける。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○
41193	呼吸器内科学臨床実習	学生は胸部画像検査、呼吸機能検査、血液検査、内視鏡検査の結果を把握し、適切な診断・治療の考え方を習得する。さらに患者の病態について自ら必要な課題を発見し、現在のエビデンスを基に、自己学習により検討、解決する。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	○		○	○	○
41194	脳神経内科学臨床実習	成績評価基準：神経系の疾患についての基本的知識（病態・診断・治療等）や神経診察の技能を身につけている。 1. 患者さんの訴えをよく聴き、病歴をしっかりと把握することができる. 2. 病歴から病気のカテゴリー診断ができる. 3. 神経学的診察を丁寧かつ系統的に行うことができる. 4. 神経学的所見より局在診断を行うことができる. 5. カテゴリー診断と神経学的局在診断から、症例の病態、診断を考察することができる. 6. 症例の病態、診断を裏付けるための検査について理解し、解釈することができる. 7. 鑑別診断を挙げ、鑑別方法について考察することができる. 8. 治療法について理解し、考察できる.	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○		○	○	○		○		
41195	腫瘍内科学臨床実習	病棟実習と外来実習を通して、腫瘍性疾患の診断、治療に対する理解を深める。がん薬物療法や支持療法、緩和医療、インフォームドコンセント、コミュニケーションスキルの基本的知識と技能を身につける。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎		○	○	
41197	皮膚科学臨床実習	病棟実習と外来実習を通して、皮膚疾患に対する理解を深める。 皮膚疾患に対する専門的な知識及び診断、治療の基本的技能を身につける。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎		○	○	○
41198	精神神経科学臨床実習	教室内で毎週行っている症例提示に参加し、それぞれの症例における問題点を整理して精神科的対処法について考察し発言する。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎		○	○	○
41199	小児科学臨床実習	座学よりも体験型学習により、ていねいな問診の取り方、患者との意思疎通の仕方、包括的な診断の考え方を学ぶ。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○		○		
41200	心臓血管外科・呼吸器外科・内分泌外科学臨床実習	心臓・血管・呼吸器の各疾患について手術を中心とした治療体系を学ぶ。手術そのものは外科治療の一部であり、術前、術後の周術期管理、治療を含めた治療体系を臨床実習にて学ぶことを目的とする。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	○			○	○	○		○		
41201	消化管外科・肝胆膵外科・乳腺外科・小児外科学臨床実習	消化器外科、乳腺外科、小児外科領域の疾病の病態、診断および治療について、広く総合的に理解を深めることにより、診療に必要な基本的知識を身に付け、多種多様な疾病に対して適切な対応をとることが出来るようになる。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎		◎	○	○			○	○	◎				
41202	産婦人科・救急医学臨床実習	生殖生理・病態について学び、妊娠、分娩、産褥ならびに周産期における代表的疾患の原因、診断、治療及び婦人科学における代表的疾患について、その病因・病理・診断法・治療法を理解している。自ら問題点発見し、自己学習により解決することができる。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○				
41203	泌尿器科学臨床実習	腎・泌尿器・男性生殖器学領域における専門的な知識及び診断及び治療の基本的技能を身につけている。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎				
41204	整形外科・リハビリテーション科学臨床実習	四肢・脊椎における筋骨格系の構造、骨・関節や脊髄・末梢神経の機能を理解する。整形外科疾患の病態や特徴、手術的治療だけでなく保存的治療についても十分理解し、実際の診療に役立つ実践的知識を取得することを目標とする。	4 5	＊	＊ ＊	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○			○	○	◎				
41205	脳神経外科学臨床実習	1.臨床に必要な脳・脊髄・神経の解剖・機能が説明できる。 2.診断に必要な病歴の聴取、神経学的診察、画像診断ができる。 3.脳神経外科学領域の主要な疾患診断と治療について説明できる。 4.緊急を要する脳神経外科疾患に関する適切な処置について説明できる。	4 5	＊	＊ ＊		◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○		○	○		○	○	◎				
41206	歯科口腔外科学臨床実習	1.臨床に必要な歯・口腔顎顔面の解剖・機能が説明できる。 2.診断に必要な病歴の聴取、歯科・口腔顎顔面外科学的診察、画像診断ができる。 3.歯科・口腔顎顔面外科学領域の主要な疾患診断と治療について説明できる。 4.緊急を要する歯科・口腔顎顔面外科学疾患に関する適切な処置について説明できる。	4 5	＊	＊ ＊	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎		○	○	○

学域名	医薬保健学域
学類名	医学類

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医師として必要な専門的知識及び基本的技能の他，幅広い教養，高い倫理観を身につけ，患者中心の全人的医療を推進できる人材を養成する。探求心・研究心をもって継続的学習を行い，最新の科学的研究を理解する事が出来る人材を養成する。これらの人材養成目標に到達した者に，学士（医学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の学習成果を上げることが求められる。

学類のCP(カリキュラム編成方針)

医学類の教育理念は「人間性を重視し，かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより，世界の医療，健康，福祉に貢献する」であり，下記のとおり，カリキュラム編成方針を定める。
入学初年次には教養教育課程を通じて幅広い教養の習得を行うとともに，早期から

学類の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目

学類のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目的	学年	前期 Q1/Q2	後期 Q3/Q4	A.知識及び技能				B. 研究心			C. 倫理観					D. 地域医療		E. コミュニケーション				F. 危険・事故の予防		
						基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。	臨床医学領域について専門的な知識を身につける。	診断及び治療の基本的技能を修得する。	自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決する姿勢を身につける。	科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。	探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学習を行うことが出来る。	科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。	患者の自己決定権の重要性を理解する。	自分自身の行動を省察し律することができる。	医師としての社会的責任を理解する。	価値観の多様性を理解しする。	幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。	地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。	医療の経済的側面を理解する。	患者・家族等と良好な関係を築く。	他の医療従事者との連携を重視する。	強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。	英語による国際的なコミュニケーション能力を身に付ける。	医療従事者の健康管理の重要性を理解している。	医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。	医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している。
41207	眼科学臨床実習	眼科領域の構造と機能を把握し、眼科疾患の診断と治療の実習を体験することを目標に、眼科検査の実習を行う。また指導医の指導の下、問診・診察・検査を体験し、手術の見学を行い、さらに術後管理を学習する。特に、下記の事項を目標に実習を行う。 1)眼科疾患を理解するために必要な眼球、眼球付属器、眼窩、視路、視中板の構造、形態、機能を説明できる。 2)視力、視野、色覚、隅角、眼圧、角膜の検査方法、眼底検査、細隙灯顕微鏡検査に関する知識を持ち、基本的なものについては自らが行いうる。 3)眼科領域の疾患全般に関して知識を有し、これらの疾患を有する患者に遭遇した場合には症状、訴えなどによって疾患を想定できる。 4)他科との連携が必要な眼科疾患を理解する。 5)緊急処置を要する眼科疾患を理解する。 6)重大な視機能障害を来す恐れがある眼科疾患、生命の危機をもたらす恐れがある疾患の眼科的兆候を理解する。	4 5	*	* *		○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎		○	○	○
41208	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学臨床実習	自分ならびに実習グループのメンバーが担当する頭頸部領域の患者さんについて、疾病ならびに検査や処置の医学的理解を深める 実際の臨床現場における治療スタッフの一員として行動できるようになる BSL実習修了により6年時クリニカルクラークシップ選択が可能となる	4 5	*	* *	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎		○	○	○
41209	麻酔・集中治療医学臨床実習	1）手術麻酔の実習と知識の獲得 2）ペインクリニックの実習と知識の獲得 3）周術期に関連した知識の獲得　4）集中治療領域の実習と知識の獲得	4 5	*	* *	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎		○	○	○
41210	総合診療科・地域医療臨床実習	1.外来初診患者の医療面接において、受診理由を把握し、詳細な現病歴を聴取して、時系列にまとめることができる 2.既往歴・既存症（使用中の薬剤を含む）、生活歴、アレルギー歴を聴取することができる 3.外来初診患者の身体診察において、医療面接で得た情報から鑑別すべき重大な疾患やcommon diseaseを想起しながら、必要な診察を正しく行うことができる 4.プロブレムリストを適切に記載し、鑑別疾患を2つ以上想定したアセスメントができる 5.1～4について、重要な情報を簡潔に指導医にプレゼンテーションができる 6.最小限必要な検査を提案することができる 7.必要十分な治療ないし経過観察プランについて提案することができる 8.今後の日本における在宅医療（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）および訪問介護の必要性について説明することができる 9.医療機関内外の医療職、福祉職、介護職などとの連携を体験し、それぞれの職種の役割と連携の重要性を説明することができる 10.複数の健康問題を抱える（高齢）患者に対する包括的アプローチの重要性を説明することができる	4 5	*	* *	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○		
41211	放射線科・核医学臨床実習	1.　CT、MRI、核医学検査などの画像検査の実際を体験し、基本的な疾患の画像所見について説明できる。 2.　IVRの適応、手技ならびに有効性と合併症について説明できる。 3.　放射線被ばくと防護について理解し、適切に実践できる。 4.　放射線治療が有効な悪性腫瘍を理解し，放射線照射法の種類や照射方法，有効性，副作用を説明できる。	4 5	*	* *		◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○		○	○	○
41212	臨床検査医学臨床実習	臨床実習前に学んだ臨床検査の基礎知識を整理、確認し、診療における検査結果の解釈の仕方を学習する。 1. 基本的検査（血液検査、尿検査、心電図等）の診療における意義を理解する。 2. グラム染色の意義、微生物検査の解釈の仕方を理解する。 3. 末梢静脈からの血液採取の基本的な技術を習得する。 4. 生理機能検査の実施における基本を習得し、結果解釈の仕方の基本を習得する。 5. 診断、治療において必要な臨床検査を選択できる。 6. 診断、治療における臨床病理診断の意義を理解する。	4 5	*	* *	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	○	●	●	●
41213	薬剤部臨床実習	適正な薬物療法に必要な以下の知識と基本的技能を身につけている。さらに、自ら必要な課題を発見し、自己学習によってそれを解決することができる。 ・医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していること ・医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やってはいけないこと、優れた取り組み事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性 ・医療事故等を防止するためには、個人の注意力はもとより、組織的なリスク管理が重要であること ・基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善等） ・医療過誤に関連して医師に課せられた社会的責任と罰則規定（行政処分、民事責任、刑事責任） ・地域における多職種間の連携、医薬分業の必要性	4 5	*	* *	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○		◎	○			○	○
41181	選択臨床実習	病棟及び外来で実際の患者について学び，必要な診察（検査）・診断、診療計画等が実践できる。また、患者や医療チームとのコミュニケーションを保ち、多職種連携の重要性も理解し実践できる。	6	*		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
41182	総括講義	これまでの臨床実習を含めた授業における学習成果の到達度を医療現場への第一歩を踏み出す臨床研修開始前に改めて確認することができる。基本的診療能力には、「医学知識」、「医学各論」など医師養成課程の卒前教育において、医師としての基本的知識・技能・態度を習得したかどうかを確認し、到達度の低いところは自ら学習し改善していくことができる。	6	*	*	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○		○	○	○
41121	医学研究実践	医学研究とは何かを理解し、その大切さ、面白さを体感する。更に、自ら進んで必要な情報を収集し、また、研究成果を他の人に説明できるようになる。	1～6	*	*	◎			◎	◎	◎	◎														
41123	最新医学研究	最新の医学研究を学ぶと共に、それらについてディスカッションできるようにする。	1～6	*	*	◎			○	◎	◎	◎											○			
41122	医学研究プレゼンテーション	自身の研究成果を人前で発表し、ディスカッションできるようにする。	1～6	*	*	○			○	◎	◎	◎											◎			
41124	英語コミュニケーション	英語で医療面接、自身の研究成果発表ができるようになる。	1～6	*	*	○			○	◎	○	○								○			◎			
41125	実践医学英語	英語で医療面接やディスカッションができるようになる。	1～6	*	*	○			○	○	○	○								○		○	◎			